口 13
3837

答問書

答問書序

子遷所校徂徠先生答問書成子遷蓋謂
經生家專修心為教浮屠氏何別人皆曰
天下國家惟聖人生知不可尚已自非聖
人則何以哉禮樂刑政以至百爾所具六
經所載窮年不可盡若以修心足矣則墨
摩氏可矣何心讀書然後行道世之耳學
者亦復經生家是守即稍々取古經視之

口13
3837

<99-752>

皆已經生家附以為說者乃謂聖人之道
六藝之奥亦惟如是而後邈乎古違矣則
亦不知聖人之道雖百世無不可行者即以
名高私慕徂徠先生者亦不得窺之則猶
尚以世之經生視之見以為迂事情子遷
蓋憂之也余語子遷曰傳焉哉登高必自
卑此書雖以國字行豈不裨益後世哉且
夫非入其門不可觀室家之美雖先生之
門牆大高恩如我與吾子亦皆得乎聞其
說而如先生他所著亦未可遽以暗投人
則此書庶乎為先容焉乎以余忝在邦君
之末不得延後世而一諭之乃序其端以
善子遷之擧且以言志之同乙巳之春西
臺滕忠統撰

徂徠先生答問書序

自洙泗之道散而大義乖後世不出聖人

吾誰從也無已則六籍已漢收秦餘燼而
詩書多缺然学者猶考信於是自吾淑聖
人信而好古君子義也古也者三代先王
聖人之道六籍所載者是已其所損益雖
百世可知也輪不斲不得為車木不刳不
得為舟後世雖機利者陸行可舟與水行
可車與有所不行也而舟車猶有倫天道
恢々道其則之七十子没而諸家散乱瞋
目詰難察焉自好彫龍炙轂懼然顧化擾
擾絲棼道將為天下裂或謂吾可以為聖
人或謂通性命之道可以坐治天下也後
世祖述此說者曷嘗不謂聖人之道具是
矣雖陽為推尊六藝然事有所不合則亦
陰斷之諸子其心其所徵焉所謂詩書恒
言者不焉為芻狗曰吾之可以為聖則孔
子而後數餘年圜冠方屨逢衣博帶巍然

稱儒者莫不謂吾是聖也是何聖抑何多也曰有此理蓋可学而為則孔子而後數千餘年寥々乎不見一人造焉者而欲造焉抑何迂也則吾不信也至性命之說後世滔々者皆以為言推歸至微割膚分理要亦濫也耳静言庸違其奈天下國家何而其徒誦義無窮此何以稱焉夫道也者先王之道也治天下焉唯其治天下而國家而身舉大者而小者見焉聖亦王者稱也周公孔子果遵何德哉君子傳其道奉承唯謹用之則行舍之則藏是為得耳非誦文安能知本之大義哉以余既受業徂來先生也從遊者時々多問先生所傳如何唯是後世多岐不知所由瞽者無相張何之有社友根伯修所私録者蓋先生所答遠人書也伯修親在先生塾中每所

礼記仲尼燕居云譬猶瞽之無相與張々乎其何之

見輙從旁私之以秘手帳中余既探而得之遂相与校而挍而授之梓人其文辞不修飾者不請之先生也雖不請之既之亦特先生之不咎成事也此書也雖緒言也亦挙一隅之道也学者乃以三隅反則知先生之学之所由也知先生之学之所由也則知先生所奉承六籍所載先王聖人之道也此謂知本先生所著有辨道辨名論語徵諸書未行也其詳今不具列云

享保甲辰春三月平安服元喬序

何ものとも平生発揮成る利益を成ることの中にて求る仕方
はなを稽古原切し義感の不至人にて成ることの
中君子にて成ることやはりく仁の部に又部要成段学に成ること仁を
惹然しるものと天飛人行ものも惹然を拵ること部切し訓解
天は学問を天理人欲し従を拵世しを徳を大成を遠に側隠
し心を仁也とやはりるものと孟子は細なしこやはり神に仕側
隠しの心を天飛尼はるものの惹然にて部を拵ること部
詩経に民のり父母とやはり隠を拵ること部解孔子生徒
民しを父母をはめるの行をやはり生人父母之父母をはめるの行
ことを平人徳き民を愛しを拵ることやはりて平人成る人事成始を
学人引出るを拵めを成もは拵をかとなりこを拵子も成生
はるをづく如之男とみをを拵しを想婦もみるしを又儒

并しかるに事おハ（まま）用にたゝざる汚物如不浄とはなれ如
ゆゑ天にそむくてゝれ共人あまねく（やはり）しまとと性ざるなれ
奴とみるしまりとを捨もるるを命しかるに理非をわきまへ
ずとなすとれぬ何ものをもてゝるるまたさとゝ家の眷属
まてもより極り者たるを何ものゝ（と也）おゝ一ゝ（一ゝ）ゝ
命しかるに非なるものはみな殺なる者をもゞ一ゝ（一ゝ）ゝ
は必ずしまるべ百姓を捨ゝ田畑耕ゝ第州苦ゝ態
をを節の人に給をあら所をを命厚とと所所のをば陸
ゝ同命ゝ人ゝ年貢ゝ送りゝ也時ゝ也ゝ打擲をを
命ゝるのゝるゝものゝを命ゝ也ゝ者ゝ足命ゝ人ゝ
皆百姓ゝ一生ゝ百姓ゝ者ゝを苦ゝ苦ゝ生一性又無
心八ゝ命ゝ命ゝ者ゝ也ゝ民ゝ八陸ゝ四ゝ民ゝ命ゝ
実ゝ百石二百石ゝ百石三三百石ゝ百石三三百石ゝ百石ゝ郷

の道ゝ也ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
く量の大小を知りゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
ゝ苦ゝ苦ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
也ゝ命ゝ眷属ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
き命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
ゝれば量の大小を力の強弱のごとくして世界ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
力のを似ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
て大量に命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
係に大量ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ
一國ゝ苦ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ命ゝ

たとへ其様の徳をも仰慕給ひて平ら様の所と成給ひぬれ
ど今の人此方にて不得ものを教へ改むる事ならぬ風俗に
染て今此事なりとしれバ尭舜孔子の世にてもかくのごとき
邪正の争ひ並ひなき事を静めん事のかゞりの事役に偏たる
し学人に不操取がちなる事となりしかど然とも教は小量の
儒者是を妙道と思ひて専ら似せとしたる聖人の道ハ是と
治る事なしと云彼流の廣ごりし天子公大人と学問の教
も上にも小量に取れる様に大事成事世の人修行と云へど
て心なき儒者を是仕ら事世の風俗をなすらしめに主従するに
治るのやとにも人を見ひんと心ゆきし一切此事に薫じとりも
て八和親ともに若もむ其人の地誥もみにふ掛ば共脈ひと
とも思ひてものの世ハ先代の学者人を仕立てとよも頂戴
し御て眷属八分で上を本頂つる徳といふと思ひ教へて称しくさ

儒者も清れて一字一句講釈の事の極とするのみにて以民史
世上の人ハ論語をよく読み覚え候ても大かた其事をば知らずして聖人の道
是ハいつもよみつかへ候へども猶叶ハぬ事なり孔子も吾道一以貫之と宣ひしも
何事も(文違テラヤ)雖不中不遠と云ふ所を指示給ひし

一 民は父母と申は天下をしろしめす君へ忠を立に仕る事
是を外一切の事は皆人より是偏に其身の為に恥を知らず富貴し
然ども事を知らぬ事は利欲にひかれ利欲に迷ひ理屈と説法を
思ひ候とも人欲にて仕候は利欲を立るは人其事とはげみ旅と思ひ
ぬる所の常人の心には御惣て様への指図も事もなく是ハ元
一生只世上の利欲を好みてのみにて世をを学ぶ心は凡昇進は
あるまじく此段の事所を知らずして利欲の故に我を立境を肝要
候ハ様是は忠孝と存じ候て辛労は身を楽しめて改め候学ぶ心得
と存じ花とは申すのみ政は身を勤め文花とは申す事の道理なり

出家して其の道には法ハ害なく候とも畢竟之は法を乱し忽之ん
を定め候ハ法立ち候なれ共切支丹といふとも其の道のは
忽ちてしにに毫髪も法儒道の可有之なれば耳は對ハ不仕と宜
一 再三ら猶更も如此斯る筋目に御座候て此の流を可邪ま
ス出家ら流行り学を申すと存じ下候ヘと越え難き事之
其外儒老の諸と申す道と存候ハ漢字方ハ法に行い仏学
ア有らハ各々一統之先に遠くし処ゆかしく其ハに下る宜ハ先日本
文武とをして聖人とやし世も先の人君にて法規しけ下申
天下國家平治の治め之ハ為に聖人の道を為を行そは孝先
を定め夫自然の道を人の行ハ学ハ元とも一統の説すると起ゆ申候
世の儒書ハにも宜しし学ハと聖人の広大之心深なる智恵
まて人情お様にさらに成様にはゝ之と行して唯思有る事ハ
字書様にては夫して聖人おゐてゐ其為る様に下地に自然を従

必ず各人理をもつて申候人々の我心にて候の求めに候ハヽ自然
申上ると従ふは儒にてなき道ハなれの人君は天下国家を平
治して其事為に遺之成候なる所は有仁と孫ちなれは仕不候
先仁心よりて人罪きに申す人々聖人の訳にハすにて曽
乃自然に其道の行ハ人先聖人の内の意を云とある法
都て士大夫の為に任して天下国家と君は仕て其子孫
と成り申候民し父母に而して可有となり申候て
くの職にも流不申候にしたとへハ唐の様には宜
を仕のへ人とあるしおもと香十ヘ人とは唐と大に二本やへ人ハ大
俳臣の職に申なしる唐にはおもと揮の申し人也唐土を仰ぐ為
のたとへは学ともに申さは申て二ても職に達の申しく又子細にとなく
人成しにせらん成しんとあるしとも気さへんとあるしせら
々んの役人ハ其体かくしてさへ有こと成しとても人の為に宜悪しき事ハ

すし世間の主意とする所は士農工商の四つに
分かれたり人の子孫男女の道を教へ
給ふ人倫五常の教を以て家業を
怠らず身を修め家を斉へ国を治め
天下を平らかにする教なり
孔子の教へ給ふ所の道理も本より
乃至天地の道理と少も違ふことなし
其の中に民世界に居し始終と士農工商に
人数多くありて民自然に民多し
其田を耕して世界の人々を養ひ工人器物を作りて世界の人々
に用ひ商人物を通じて世界の人々に
其ことを弘めて孔子の教へ給ふ所の
道理を自ら学び後人に教へ
むることなり士人学問して人を教
世界の人悉く孔子の教へ給ふ所の

内後人として孔子の教へ給ふ所の道理を学ぶ者
なり孔子の門人三千人の中に
孔子の君子仁と云て いづれも君子
と称し給ふ仁とは何ぞ
山林に隠れ人の道を捨て世俗離れ
離れに食の境界を捨て
良心の上に理を立て天下の
世界を救ふ人の為にも己が身
心を人に譲りて天下国家に用ひられ
錦衣を着て 孔子の教へ給ふ所の
八人の上に立て人々の行跡を治め
命じ給ふ人々 信仰して信仰
身を修めて 鬼角人を下に置

の主意にて候へば、たとひ如何程人と成て禅法の奥蹤の室
内へ入とも修行未熟なるは、却て我か芸業に慢して人を軽しめ
出家と作る道とは申され不申候、一切の善を学し身に修して法
我か父母をも不孝ならぬ事は申に不及、何れも相覧し金言妙句を
孔子の教に依奉り、尭舜禹湯文武周公の道とは仲尼
並の教を遵して候ハゝ、不思人の道と仏老との隔れの比
変と云ふ見えはつ迄

一 学業にて完学ある人に超え候、教とは申ても其御教細共
と云ふしる事ありて候へ人を惑を有、数年候學問に切磋りる候
教化教ゆる候蓄へ記置しと云候に兼て好まし候と御見え之
候志て権威を以人を無候して學問とは申し教へ自然に我を忘れ候
身をおきて候教へ孔門にも多み候は通りにて候へば末世に成候は
是ても古人方と学び其如くには参り候く能はず諸天人あるべき一

此の如くなる儀は申すにおよばず候、誠に仕るべき数にも候はゞ御言葉にても
くはしく承り候ハゞ一程しばしば申し候、理窟にかゝる事も無之
云ひなしたれども、ごどりる聖人の道を人は道理学に
の世に至る迄今に仰せ候へは人こそ候ても人々聖人の智
八卦の書を極め候聖人の道何れの世に至るまでも
やはり如くと深く信じ一つ如く成難き見えぬ事はなく候
の数出で申し候

一 此頃歴史と申候にて資治通鑑綱目を
被覧候てもなく、資治通鑑ほど
撰ハ出て候へ共、続何の事
天治以前の事目録を候へ共通鑑綱目之
目録に候て聖人の通鑑我有る
不尽て源綱目遣して一字

衰敗と云事となりて為も此風を好み後々に理窟立
ぬそれは学問風朱子流の理窟に取まぎれ此学問の害
となり其事は俗学者の語説明する所理解なれ共後世の
仏の道大ハ宝学の事とのみ言へハ事済事に深明に何もし此歴代の人
物の評判を覚えて評判なし何より其是悉く学文事すゞて
人の学ぶ人の学を知しとも学問とは人柄の能人の学問
知りて人柄悪敷事ハ中々叶ざれハ此道朱子流理学の害
となりては我々国通鑑綱目をとらん云ハ古今の事実には人一人も皆
しるもの此通解する事も世の人ゝとも人柄悪敷ものなる事
ども少しも綱目に深く猶ハ大利に相たることく捨置ぬ
是を理一定して忙しくさいわいして比と法然人と
法語の事と鬼角どれて縛りつけたるとくりんても語にも
用い学問にて只人と金の利にかと思し人にて世上に成事学

の資治通鑑なる所に編りし事とは是を思ひ入れ
理窟深きやうにみえに綱目深き人の事など立
おしとも是にて朱子流し理窟を深習聴き事とも書
学問を飛耳長目之道と荀子もいへり是に於て天下四国
の事ともことに大いに耳に翼ありて飛行くとも世に生れて
数千載の昔の事ともとくと見ることとく知る事ハ長き
目なりとも事に広ハ天也広しる事実に深りもと学問也
事とも学問を広く知に極め事々に古今和漢へ通しなり
是まで此学の世の風俗の目を見とも人おしく広き事なる議
井の内の蛙にも世の中の人を知の人なりて其利の
目まで広くも入知るとも此ハ其人まことに知見ゆるし
其人ぬれた人の手にして人を飛耳に取り見に其
事も未能事知りても少ともほんの印程をとまれくもとある

難解なる書なれバ少しも学びてハ読み難し夫ゆへ儒者とは
読書しなからも学者とは唐土の事まて聖
人の時代を見るやうに覚え居るものは我朝の文盲なる愚者
のやうになりて其故は此事をとくの将軍家の様子など秩父
秀田様にても今世の大名の様子にて其時代をしらずして
の事をと能く知る者ハ紀並衰の応じたことしらぬもなく聖
人の作る事ハ世を正しく利するに聖人の法立てしとても往々を
流進むなるゆへ年々歴代しるす様このみて変換しの人気は
やう風気に応じ度々かはるゆへ事ハ往々なるに歴史の功にて
此様に歴史にて其記録を良史の筆にそまりしるし世の
をとめ置ることくいかにも面白く覚へ見るに
情ある稽古の國家法と徳治の事を上代に書すて此様にて
古学の風儀残り居る宋学よし学問の窠臼にならず学業し

しれ資治通鑑ハ綱目まての類も多くも其事を記し
学の稽古として國家の道理をしるべき書物書籍も多し
くすを知ることあり只しを遍歴にも手も及ばず今にと見
後世にて理屈をば知るも浅はかなくひさしく此儀
なまなかにて知るとも何の益もなきことしるべし
一 唐宋諸儒の経済の学は皆政事の実なる事の実の
上の能々よく知る心得あり能く此の此様に知る也此様に三
代の時には封建の世にて其後秦漢以後も唐宋明まで
ても皆郡縣の世となりて封建の世を郡縣の世とも云ふべし
制法の趣解もおなじく封建の世なりて天下を諸侯に
分けて天子の地は僅の地にて諸侯の地を皆世
襲にて代々知行を持たる故に大名小名とも家来有て
までも其大様も人の風俗にしたがひて士も大ハいかにも

士大夫ハ諸侯をさへも諸侯ハ大なる人の心定りて我等が世にて
ハ諸侯も粗くしるハ上下の忠義をもて治りて庶民をと定めて
とせんと致し諸侯て士大夫て皆郡ともに致し治郡を治め
ハ事まで此等ハ郡縣の世ハ諸侯と云も士大夫皆一代切なれ
共れ不知の以皆切年などりて深慮く下々是をぬく皆為
世まで無とだりを損ふなれ天下の州郡を治めぬ大守縣令と
しかも皆代々の恩ある故まで三年程りて在威權振く
皆治療し治れ三代と程り嚴密なる子の忠義をと以て也
ハ其三年程りハ在息く論の天ハ事と弟一つを致し風往
ふれ士民まで起りて宰相達とこれを致し事あり位
士大夫の云所をと求めて生れハ是三代と治せいふの大將地
ふを迄まて治療て其本大ハ郡縣まても治るなる程封建之難
我ら在庶宰諸儒し説まるを其本ハ後學在治亦ハ施

宰諸儒し説を多くハ紙上の論まて治まる物の上に出たる
ねんて不止と中く遠まて宮守を先て行の如く治するも治理の是
へ擬りを得も古まさんと云まさもむこそて己がす為めと何して学者
宜子ハ雜に開路よき擬と此越ゆるをおさへて疑はず学者
の説とおもにくぞるまでもとは治にてむなりし治し此の病れて
こころえ擬る在る者を治めるて云ふ者を治めかたたゑへ大医者し
病と見まるかてく在ハ元宰を厚くしる病も其大て者役種
もし庶宰も者病れ知るし嘆ぬて樣々見病人治療なる元
氣と補ひ病少と静め其種と瀉し在宰を抑へ嘆を止
瀉と止め中ハ配劑を一つも不治加減して其本なる治療にハ瘵
治き大抵ハ下手醫者の其る事にハ切忘ある療治を生し元
氣と補ひ其も病れ病少補治する事もあるしあへ病少を
瀉して病れ元宰を補ひ事もあまりしへ元宰を補ひ中なる

取よ先推はかりしをもつてしに諸病愈しとおもしは元来此
病根病気とみえて病気と成へハ取も自ら癒ることもおもへんまゝ
病気ハ公支痛疾まて病根病気とみえても病気を治
せハ出やとおもし治理なく八目節とえ了はなれりに癒すことを
しく標病おかくし急なる於て其先以留と止めするこゝろ諸の療
治とさるもあるし如何療治とさるまゝうしてハ印ありて
随一途に至しとの仁んまさとも恭く人の了簡にハ明細に一つも残さ
ふかしゝと甚く中の詳し事和漢一日に覚えかく八人て学積まれ候
ゑ先に残よの論を明細に得し事ましく見よ未た書し人と虚とる
謂ふともしと只元し事もてなしよ孔子の法詞に君子其言也訒
と候孫々とこし旅維ぬくもの為之難とは思ひ其事君子の
あるを及の誠をあんまる事六ヶ敷事なれ能かし能心とをもへて
たる日君子ハおん安く拙の候ここ甲まさ無事しか意とる法[illegible]

誠に世俗の流よく手なれしもんの法なるへしとや覚えなれ数も證
跡の論まさるへくみへし事にハ本来其能学ふるにその上が能法
義し候證も無まで八字を候ゆへハ余分にも多く官
位事少と広くも為に其経済しましとも後隆し事学問
て人学ヘ而者ハ広く抑そそも中とも其大道己が知見をひ
ろむる事まれ有し経済の論までも西よし見え来ま政
務に及ひ其知しうん事ハ究理法學すとなりて己が知見小さか
ものハ孫しかし如事をも治教を見ひ己が量小さきなるものハ知たる
事ともや見知してすひたくなれ者を以てみるうるき後
は法なれ学事なる事にハ時戒の要なり也と
一 ここに俗に勇ましくふるまひ武所よりはむなる法理なる理
人の心と知仁勇を三達徳とあし為君子ま勇なくてふ
叶事とも大概をさして如事とあやぶみなれ如事ままに[illegible]也

るゝ人情のならひにて法度たとへハ親子の恩愛は讎なれバは弟子
例へバ忠孝にのせたる事を説れ世に武篇者と云ふ人も礼
法の場にまゐりて殊の外に臆する事多し是らは戦
場にいで文字なく文勿れ幼児の童の首を探の戯をして宿の内と家
中にあれバ臆病ハあのかち目に見る人にかまはず戦を
忘れバ危ぶき事にもとなし此身とならんと知ぬれ也
ねがはくは忘れしも忘れ侍れど新生して気もと多くある者に近付
せめて恥道する事常に一人祢乃程も忘さぬ下へとて其事にな
れバ度重なるに（ノチニハ キ）気もたふ危ぶき事を恐れ事に習せ行ふ事ハ皆
色なきハ是事に慣れてよく萬事忘れたるべき
腹据りしやしとて元来の勇気の勇気と云ふも人大抵の
事を通りて其世の中し事人寄人力して及ハざる事なし人気を
付けぬれハ存のなまで少し勇気を幸くし事をも人に力の他

ばかりも場にまた命にかけても其身を知る子に詮議で出師
此法に勇怯の根本にもあらず命をとるとせぬとに英
仕事をせぬは世の人には馬鹿となる事を堪忍した心が急に気に
不可なること愚かなるまで此れハ天の助けと成る為にもなるうと
は古人もいはんとあるものは生死をも忘るる時は何事をも破るる事は一定
の理そして人のあるは極めしたる場にのぞみても一生の助けなくて気にもとれる
といふ事は思ひしるすべしとたとへハ愚民の田畑耕作もつかず事をたのしむ
農作の力を尽しても大風水旱は人力にしてもせざる事なれば
泥人の子供を取上げてかかる乱めのことをつけたる怪我さすなる事
止まらさるなりと詞を附なし人目に見え候ての重なる事に候へども
太なるの子を怪我などしたるものに文職をもこのむ子共八十母さん
は旅に暇なくしてハはづれても日々めでたく他身なよく
取り扱ひ行りせずて陸なる所にも人も他しと考へ又なりとて八流揃

も歳は生るまも殺生もそぐちはいと産土神のやうめ
とのやしろもげにまる事とミえ侍る人の世とよく侍るハ事
意の和を天命に歳忘あるとの事ハ
はたを一天下のうに心と命しとの人ハ
とを説くハ如何しまして元第二等のうとの人集ハ我
の工夫をハ聖賢をく行を地に如何なるしあたいハ工聖賢とも
なれハ陽にもうして命るとの人あとをハ聖賢生出やあらん
孔子の不知天命無以為君子とハ行に勇のこと也
とをハ六理に載生元亨無陽文武周公孔子ハ皆天下
を主とをハ事をハ
一徳して風雲雷雨ハ天地の妙用なり弾丸雷雨ハ
りを人元亨利の徳を忘ハ古より伯陽の事をや
或ハ鬼神の知を中或ハ歳の数ハ事を天地ハ流行の

神妙不測なるあ所と人の限あるを知ずして思ひ
の説時に天地の造化の業ハ
なを不測君子の学問も事ハ
まて人事のとハ
と宗儒ハ学ハ
のとハ
こ一切事も
事まてに人中庸小雖聖人有所不知とハ
まて切として
如事とをて人と
少事と儒者
事一事に人風雲雷雨小少
而こハ
神妙の学ハ
の学ハ
の学問
山の峙ちこ

飛獣乃たぐひ人のいふ所をきゝて其すぢもいふもの也る故にや此ことくふ
ることさへは人理を申しゆゑ御僅(ハヅカ)に途端な行などいふ名
目に従ひて初りあれて義理と設けたる教をすてゝそれといふを
多き也べしとて際に気随を得てハ法しく下り教に気をと忘たり
と覚へ人浅猿き事に正路を流る病をも覚ず様子もありたる
らめとある無所不測なる天地の上は云と気く此故にこそ
る当世当まで下りゆき悉人の心と

一 佛者釈迦佛法修行の者と御割当致し申す事人日比の
法義は是は本道なる法に外なる修行者とも終々未世の儒
者ハ聖人の道を称へ私物の様をなし所謂之一家とさへ孟子
八楷其しと申ハ宋儒ハ佛をもとし申ハ中々心入て宜しかり
て嫉妬(シツト)の心まで浅猿き沙汰りに聖人の道を正路と
宇流まる大ににも佛法を称して言ひ凡をと思へ可仰様なる事をもて

は云法ありて佛法を千一人の心を流め定事ことを教へ申候べき當
而聖人の道は様のものなりとのまゝす様也不乱とおそれゆゑに是
まふやおとれとれてよに我日に越やらぬ世俗の中にも讐仇とは説く
あ所り宋儒に学問を先佛法より先安所の事と嫉みゐる事
は事と思まして古今ともに無く仁の云ひ談おさるに其の心不審毛
の罪に修備無之事有る所以後をもち乱りて孔子ずハ地獄と落ち行ぞ返
まとこれ法人人まゝ只ひまにて沙汰下ル如物をそらひまにまへ入れぬくば
さびしきは修行にて程もし無所由に於事に相るに有る孔子とは如何
と事聖人は人は儒と称法をおもふに修行に聖法を其別を開きとて
もいまゝ国家を治る事と掌中にめぐらし流てしてもさ言法不在に是家
て多年をさと勧むとも辞し前後の好も行くと成しなり手にも出さら
ひは朋友も故界になく有りゆき人も我同士に行ら法を家事
八子在に譲りぬ此ハ再いふて不尽に言ひし無卿に如此ら事に

或は棋象戯双六などすべて打ち遊ぶ事より酒肴を備へ
而已ならず和合せりとて不作法にして仲を
不和にして寂寥を慰むるの事なれば後世やらは
なるべくに上佛法世上に行られ千年に至くの間
の民を不善人の道を民を毒害するとも
疾疫なりしは南鶴と療法と如来の
絶しあるとは蛇蝎毒虫もて把の化育ととれ
佛法也未の世なれば人の利益のあるべき
なくして人を誤めて誤ることなれば
不顧思ひ入べし

但来答問書上終

但来答問書中

一経済と俗世の間の法空分鑒と法性の法動解
とは中や世の人なれば経と法とは解脱有と解脱
ふ法性をみるとは法の味とおくてふ門と
しと人多くは法性の法味とは経済と法
苟非真人道不空行とは
たとの法は悪なる人能なれば
味法なる人悪なれば
ば人法を生ず法性味法
ず用神を毒と天下に流し
食欲甘しと不善人多き者の
も多くは人病無之
みれば病とはあるに無
施用物とは不動者と

法中と法空鑒と
経済の法中
王莽王要右
経典坤経典
人の
人ふたるを
名方
器量より
用之

古の聖賢の言を守る事を以第一とす然るに今時の儒者
人に先立て人をして己か[illegible]穿鑿に及ぶは此病
根也此自分の才智を以用ゆる事を好むより起れり阮籍
大臣も量ありて然は秦誓の断々兮無他技とあり此書
経の篇を読みて孔子之言用心すへし此理を
汝命を恐るゝ所の人は此求めて[illegible]事と[illegible]
[illegible]善事を[illegible]悪事を[illegible]以上

一[illegible]書に有て再三[illegible]人[illegible]
[illegible]の人少学問[illegible]人は大乱[illegible]
実に[illegible]文過之言[illegible]実
[illegible]大きに[illegible]国土に五穀を生し財
木[illegible]古[illegible]世界[illegible]
[illegible]八地の[illegible]人[illegible]

[illegible]教化[illegible]世の人[illegible]
[illegible]時代[illegible]人才[illegible]人[illegible]
[illegible]語[illegible]夫[illegible]庭[illegible]人
八[illegible]人[illegible]世[illegible]像に流[illegible]民
[illegible]人[illegible]孟子
[illegible]歳を[illegible]の教[illegible]
[illegible]の才智[illegible]病根翳
膜と[illegible]人の[illegible]
[illegible]人才[illegible]宗[illegible]言[illegible]
[illegible]人才[illegible]宋儒[illegible]皇極
[illegible]温[illegible]十一人も
[illegible]人[illegible]
[illegible]経文を

[illegible]

不同如面々見下の法無し[illegible]

[illegible]

迎[illegible]

[illegible]

一発角人の法[illegible]

[illegible]

[illegible]

世法[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ものなり[illegible]
[illegible]
[illegible]

みなて石膏階子の宮なきせ苗と求へとも有なる苗ハたゝ
ゝよるまで年〻年よりよく年〻もとゝ月なれハ根元同
に抜りつゝ苗を毒なるとて人ハ毒と名とゝ計りしるゝハ也
ゝ月と月と根元ゝ毒に底抜とゝ人ゝ世の習俗ゝ名と
はしてハ人ゝ苗や人ゝ抜ゝ抜ゝ人ゝ人ゝ実ゝ毒ゝ地の
万物抜何ゝ毒ゝ長短抜ゝ失ゝ長ゝ月ゝ財ゝ天
下に棄抜棄ゝ才ハ学ゝ抜ゝ人ゝ毒ゝ不ゝ抜ゝ根ゝ抜短ゝ毒ゝ中
ゝ月ゝ生ゝ月ゝ底抜ゝ思ゝ高ゝ言ゝ人ゝ月ゝ月ゝ毒ゝ毒ゝ元ゝ
短ゝ月ゝ月ゝ生ゝ月ゝ毒ゝ人ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ
変化して洋然中和の徳に帰ゝ毒ゝ毒ゝ質ゝ毒
やりゝ底ゝ生ゝ毒ゝ人ゝ孫皮ゝ毒ゝ抜ゝ毒ゝ毒ゝ
毒ゝ底ゝ毒ゝ毒ゝ

一五穀ゝ説ゝ抜ゝ底抜ゝ毒ゝ月ゝ抜ゝ毒ゝ毒ゝ人ゝ毒ゝ抜

見人ゝ毒ゝ毒ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ毒ゝ
月ゝ毒ゝ毒ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ毒ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ月ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ
抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ抜ゝ

[illegible]書陸三八来[illegible]

[illegible]

[illegible]

爭ひなる所士と民と異なる故に雖敵の己れを
苞に保ちれば異なる故に民を苦しめ人をなる所一
来〳〵迄一度生る事を以に所と為て獄訟小利等を
生れ〳〵ばる情と生ずる民も社倉を立て贏餘
と稱て名就小藩の時八貧困の患なし民を苦しむる始
只今迄乏き仕置なる事なりて世のつぎも足
斗り土地に生る物を山を立て或ることあ
仕の商賈を通一本糶く来る小藩八国衰る物なる故商
人多き八豆し寄なり人又貧を商人を以て富を
みるく何もに商賈の通空しを知を行なるよ民の衰
八奢と賭博あり八厳禁を以て賭博と共に衣服器四の制度
つをゆめ別心を用ひ八豆と富を争人作ることなれ
何れも豆民の心に安如去せざる故去せざる故に
義をとをとしの危所と共に古を法
古の制八上の僭侵を及ぼる事に
一を作る通武藩八豆の根本なる
の土地と所を所と人を集八迄不
藩賈一人古を富家と一藩屋を手繁と郷大夫を
家と一芸藝と以て家なと以て陣律と賊盜
律を定和み事と盜賊と反逆八同類とのこと盜賊と為
藩に武藩を設ける急幣なる故に年迄年
の時八兵威と以て民心を強壓して盜賊部る時を迄に
所あ元藩なる所なる古の縣令を小
武藩なるのこと所を所と所なる事と職分を貢
元三年と所あと作る書作元の部人と古を作と職役
と早く所を賜く部省を賊罪し後と為年人一二年

二三万石計り給ふ兵士の数もかく給ふ人を千人に
不及とぞ七八万石十万石も給ふもあり諸侯ハ必代々に武備を加
へ給ふて年々ふ仕事に検見を行ひ世上こゝろしゝよりて年貢
の人なりとて代官ハ百姓ふ対し年貢賦の法を常免と称し
ふ仕ふ三代ふ法夏ハ貢ハ殷ハ助ハ周ハ徹法と徹法ハ貢助ハ助法
ハ公田私田と分ち公田ハ百姓共に耕し私田ハ貢ハ米を納
大馬の法なりとて和漢ふ喩ふ良法ハ貢ハ人を能人情ふ
通じ古ふ倣ふて年々ふ世上ふ検見を
行ひ年貢を定ふ仕ふハ賄賂ふ断ふ所曲を矯ふ
日本の古ふ実ふハ素隆ふ元明ふ
出て天ふハ文の嚢橐ふ入ふ
思ふ天ふ定額ふ定て定額ふ

て田用を制し給ふ所ふ等後ふ
代官ハ節ふ守ふ代なを郡職ふ
取ふ士をハ一ふ
情ふ
けて旬日の制度と
一ふ
況ふ
ふ
ふ

世をよのなかに流通せしめ、に仕合せて財用し、殖ハ必商人のために
益あるとこそ思ひたれ、中ごろの儒者利を忌まるこそ不審なれ、
今一層深きを思へと、かくべき記事に侍りけり
一説ハ、主君、こゝろ思ひ、世を治むるの道、やはり、
理学にて、聖人の作法、ことごとく、
とうとく思ひ、宋儒を忠しやうに、
ハ、徳ある人の事、世界のるものにてくまなおとめ、
世をまて、君臣の作法、経世論、
世界の事のめくるまわり、内ある
作法、忠孝、道徳の学問、世俗、
学問、知と、
まて、世の風俗、
今、
世界、
役人と国家の仕事、
なり、戸位素餐、
まて、
女、
俗、
神、
家、
仕、
君の
世界の事と、
役人、
に思ひ、
君の
世界の事と、

時うるさしとはいはず年とともにまさるとか
おこりはてしなきものの業報なりとて
法師の辭あるべきことなりとて
一ぢやうの法師しるべきおもしろきことを
とりあつめて人の道にたとへ教へ
をよそ附属の秘宗なり佛法の
此の部なる秘宗の法は陸ざるあとを
しるべきはまれなるべきなり
法を法とせざるは自性なり
法敬のいとまなきこと
よりて借屋とせる人
送るべきこと先祖
つたへたる十善の位
此喩ともいはんかたなく
ぬい人の所の内は病
を扁鵲ありとも
扁鵲ありとも病
所なる者は治しがたし
治せんとて
法師の無
時うるさしとはいはず年とともにまさるとか
おこりはてしなきものの業報なりとて
法師の辭あるべきことなりとて
一ぢやうの法師しるべきおもしろきことを
とりあつめて人の道にたとへ教へ
をよそ附属の秘宗なり佛法の
此の部なる秘宗の法は陸ざるあとを
しるべきはまれなるべきなり
法を法とせざるは自性なり
法敬のいとまなきこと
よりて借屋とせる人
送るべきこと先祖
つたへたる十善の位
此喩ともいはんかたなく
ぬい人の所の内は病
を扁鵲ありとも
扁鵲ありとも病
所なる者は治しがたし
治せんとて
法師の無

[illegible]と世間のあらゆる人間世態の熟練なくして当今[illegible]
此国家の利害を思ひ[illegible]を国の古法を改め[illegible]
[illegible]の代に[illegible]生れぬ先人[illegible]
[illegible]なるあらんて[illegible]
[illegible]一代[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此段[illegible]

一輪廻転生[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

はて曾子ハ聖人ニ成給ふ事と思ひ給ふ
第一人と中庸まてハ曾子ハ成給ふ事
とのみ思ひ給ふ中庸ハ聖人ニ成給ふ
こと

一鬼神ハ古ヨリ諸儒やうやうくに何も
と理窟ニて理屈ハ中庸の為ニ作り給ふ
聖人ニ経書ニ鬼神ハ無と云事ハ
ハ理窟ニ作為ニて拵ふ事と
しかるに聖人ニ成給ふ事ハ宋儒ニ
意鬼神ハ有と中庸ハ成しかし
百作り給ふ聖人ニ書ハ鬼神と云ふ
ふて鬼神ハ世界ニ利益ニ害ハ無ふ
ハ理ニ仏ニ亜聖の説ハ鬼神の説ハ
作ふ害ハ無しかるに聖人の
ハ君子の信ハ

屋ニ中ニ冥々ニ中ニ入ハ鬼神ハ
とし人ハ人の中ニ入ハ
教の神ハ鬼神の作ふ
くハ作ふ

一ふ作ふ人ハ云ふ人の号今ハ迷ハ此時ハ
社ハ民ハ作ふと云ハ
ハ此ニ作ふ
不ハ用ハ
乃作ふ
農ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

鬼神の為ニ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

迷信ぜるとかれる人間世界の人の為めに
一たり〳〵の故〳〵作ゆえ数たるは人為なるも能の決作なる事
以て之の妖怪なるかを為すべき事なるも
世道れ為なるとは為人の為に
く人事を為すべきの人の数の部に
たるべく天心を逆ら事
信天を尊ぶ妖不勝徳といひ
心の騒動を妖怪とおこるとの事
の騒動は止まるべき不知命を
を命とふ故人は君子とも
後〳〵

一世界今の人は皆の定不定なる事
為解りよく信ぜず世界今は不祥物なる事

之を世界に知らしめ下の人（於人世界為人世界）
の子細を尋ねて信ぜしめ果為世界こと
世界今為世界よく信ぜざる事
世界為信ぜざる人不の為
なる故為世界為人世界
要為世界人為
人印為世界
聞くこと世界の事
為世界為世界
為世界と為世界
ひと事を為世界人不知と不慍
上たる人こと事を為世界
為世界人為世界人

自己を修めて人を治むるを聖人と云ふ。人を治めて人を治めざるを仁と云ふ。御と御と御と

を教ることゝ一切の生物に於ては解りに家族を愛の毒にあらず
事は不宜事なれども家族を愛する天地の産なり
るに家族を愛すと雖も化せざるべからず宋儒の妄説なる
と人は責子孫を撫育し家族を愛すと雖も教化なくば
あひ米をいつくしむと雖も米を人はつくしと云て人は米に
なる事生れたる為と雖も成長して人は米
なると云ても天地性のまに〳〵寶ものよく〳〵知るべし
たてはめくことなにては用ふるべし世界の為も
米をまて用ふる云ふ云てまこと米なるべし
ぬ物に云て米ふ物ぬ宋儒の説のごとく家族を愛
化して深化中和なら〳〵米をふるも云ふ物ぬ
きとの事とや其ハ切の事もこと〳〵人なる
もなる云て米も用ひられとこ〳〵事にて世界を

成る人事こゝに至る聖人の教へ
説まれ聖人の聰明睿智之德を
ひとこゝろ人はをもとして人力を
たる聖人のなりたる人
い聖人の教ふ聖人なれとこゝろ人
君子こゝろ宋儒こゝ説
能事と為一こゝ仏
盡天理滅人欲
さもばもぐんして聖人
たてんは雷又鬼なる
量にて孩児を
虎の皮の下帯を
説こゝ聖人

成る人事こゝに至る聖人の教へ
説まれ聖人の聰明睿智之德を
ひとこゝろ人はをもとして人力を
たる聖人のなりたる人
い聖人の教ふ聖人なれとこゝろ人
君子こゝろ宋儒こゝ説
能事と為一こゝ仏
盡天理滅人欲
さもばもぐんして聖人
たてんは雷又鬼なる
量にて孩児を
虎の皮の下帯を
説こゝ聖人

聖人の教へ儒道を学ぶ人とて学ぶほど
のおもむき八幡宮の事ども能く心得べし
一天地の間に人ほど貴きものなし
天地の間に万物の霊なる人なれば
法則をもて国家を治めんこと
肝要なり国家を治めんに
聞者一病と流行はいつ神武天皇
以来人倫を正の教をもて
万民を教ゆる積塊を退け
聖人の道を大道とし
正しく人倫を教ゆる
儒者人の道へ
仕掛けと云ふて
世を治め

とも相伝を暗へ
とく
あ
一
庸乃道行
ふ
一
孝
孝
孝

くの人にすぐれたりしは元信と称し侍る達者なれば
絵ものなどうる父母に孝弟忠信明らかなのたことはりとして氣質偏と
やはり中庸とはいと孝弟忠信なるひとつ事なるべし
そもそも孝弟とは何ぞとあるに知の人の学問の所
ゆえんは人倫明らかにして人倫なる孝弟なり
に孝とは一とは父母に孝なる人をいう
孝弟とは幼少なる人が入やすくそなわり忠信偏
しかもとのづくるはなるべき先王の道なり孝弟一つ成れ
るはなるべきを中庸三徳行とはいかなる人を
又孝弟とは出すとは出すべきに孝弟
ばかりなるべきを孝弟とは君子の道なり君子と
以孝弟忠信の行をたるべきに
なるべきの人のなるべきの行なり孝弟忠信中庸と性れ

はるかにおよばざるべきなりやはりすぐれたる人をうるものの行
もそなわるべきなり孝弟は父母をたのしむべきの行なり
をもとにあるべきなり孝弟忠信なるべきの行なり
行を明らかとあるべき孝弟忠信は物にも性にの
小さいとうるべきは孝弟の量の大小にあるべき大量の人なり
でそれを孝弟とは孝弟の量の大小にあるべきなり
くも仁の心をたとえるは孝弟忠信中庸と性行とも
孝弟忠信なるべきは孝弟忠信とは孝弟なるべきなり
人を君子の仁によるべきなり一題数いくらべきは
孝弟忠信なるべきなるべきなるべきなるべきなり
とのを求めるべきなる邪術よりもやはりとあるべきなり
子思子の中庸とは孝弟忠信とは孝弟なるべきなり
大小の数の分量は孝弟忠信の行なるべきなり量の

の道は[illegible]

一説に曰く、学は孔子の家語の問章記
備わるものなり、孔子の年十五にして
[illegible]先生の詩經を[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

世の中の学者なるは[illegible]
[illegible]方の和歌物語は意味[illegible]
[illegible]人なる国[illegible]
[illegible]経の学[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世来学問之中[illegible]
世年先生学問之[illegible]

一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

迷ふものハ世間人の合点の悪きゆへ也と人々ハ云ふ
を云ふ所の人民の故なれ共ふ[illegible]る所ハ人と合せ力と合せ人世
[illegible]ハ神も勧れバ成就し勧めざるハ成就ふなる事ハ
[illegible]ハ[illegible]を以て[illegible]去利を明らかにせんとせんが為人
[illegible]と一つまりて[illegible]る成就ハ[illegible]と開物成
務と[illegible]て世間の一切のもの[illegible]人力[illegible]
[illegible]も法[illegible]人と法[illegible]ハ[illegible]
[illegible]人と人との[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

に業しるかとなんとかとかとうたりしぬるとしたる弱のたを
ものかたりうるとかとなるとかとなるとかとな

道をおしへ命をおしへ給ふ事ハ古の書にあまたあり公
室より以下臣子に至る迄韓信諸葛孔明李靖郭子儀方
々に至る家方流に八其家業八師と仕へ代々世々に
こと〻に武道を学ふ事ハ中古より起り
其家の役儀ハ文武二道を兼備する中古より公
家武家共に家道と唱へ公卿し侍ハ公務を文道と定
(武家し侍ハ公務を武道と定)
とこゝろ得る事なれハ文盲無者の輩ハ名目ハ一習し風俗自然と
されども武士家と世〻ハ一習し風俗自然と
大概男尚ハ武と云ハ武道と云ハ信と云人しなさく
さるなくしてと男子の世ざるるとこゝに習ハ保平の時分
比迄りこんまり世人武義風俗世間家中し侍今に
〻まで侍のこゝ地にて下一統しても相違なく文盲にて
武士の人文盲に成る事を嘆ぜ
家の役割と云ハ侍ハ家中し侍今と改めハ
世に出て武威を顕ひ武士ハ侍ハ自然と
命と共の事と武家の侍ハ
武士ハ侍と云ハ武士ハ侍ハ
儒者の輩と云ハ武士ハ侍ハ
元亨の時代ハ武士ハ侍ハ
而上に建武二年ハ中比ハ
皆戦国時代ハ保平の時代ハ
侍世に成ハ保平の時代ハ
の武士ハ侍ハ
侍のゆく平世に望人に
別して乱逆と称ハ

三皇五帝と称する伏羲氏より孔子に至るまで
為政者聖人の位の一部分なる時代なり
而して聖人の位置は二個の位置にして
聖人の生れなる人は学問の偏性を養成
しに成る者も学問を成る人は武道を
以て成る者なり武徳を以て成る人
皆武士なり武徳なくして治れる
国なく士卒なくして平生し時も
しかるに士君子と云ふ者は
武士なり武士の中の武士は武士
士の学ぶべき学問も武士君子也と云ふ
紀氏は武士の学問の学者と
斗とする人は武士の位置
聖人の位置の位置

武士の風俗は原平の時代
風俗とは生活法にして義風
たる人は武の本体にありとして
武士とは悪くは士気セしめ
義風の風俗なり時代
公義に対し私闘は禁止せしめて
くの為にとの為に闘ふ
義風の風俗の上に
世にやりて
世にたる人の
ふ
武士の風俗は
一
武士の風俗は
一
武士の風俗は
一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以来はしらく行わるゝ事なれども只そこなる寒学のみ
なりとおもへるは学の問ふ仕形宋朝まもなき一流なる古
聖人の中道法と為すべきなり宋朝の窠窟なるべし
て学問のもとこゝに学ぶべきなり四書五経の外注大全
宋儒の語録諸家の東坡山谷三體詩瀛奎律髓之類
唐史史記通鑑綱目の法度の旨趣を見るべし
学ぶ古注唐史八代史国語史記子書文章辞文
選韓柳迫八百年の間の書籍八老荘列子諸
人の知見に出でと林希逸解八唐詩選唐
詩正宗を出でとの見の外空同何大
復李于鱗王元美詩の空虫の如き八を境の籍
しらるべき人の情なるべし
とのゝ見なるべし
なるべし

八芸舜に出でし人君すべて天下を
治めし法なるべし聖人は物尚の理を明らかにして地の
形しる事なし聖人の道を学ぶべし
治の礼乱の礼示して風雅文采なれども心
理窟と云へり風雅文采なれども
学の法なる事を忘れて人を喩す法
中一よりそなる理邪正争盛より始まる
しかるの極すりそなる物切程なるべし
なるべし
みな人はみな聖人と宋儒の文章を真とおもへり
元朝の学と鄙俚俗の書籍を

源氏物語の三代の古籍八漢文にて抄し候ものにて
八代集点にて候へとも不入事に候
源氏物語の注釈
一文字は中華の人の言葉にて候
整ひ候ものにて日本の和語にて候
儒者注解は失古言は古言にて時代に古籍にて
和語は後世の注解は遠国に侵され
候しかるに仮名にて和語にて
系にて漢字は字に依り初学は
解りて益なく
一同学にて朋友聚りて論議なとなすべきことに
西の会点にて候
四書五経は初学の仕形にて点にて学べ
一出物に漢字は西方に退屈なる人
一詩文の仕方は只詩と似せる能に
一歌は
一歌は和語にて
一中論は
一中論は
くは
抄は
物は
学は
物は
詩は
歌は
詩は
詩は
詩

[illegible]
不眠の[illegible]に[illegible]世儒者[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
陽明[illegible]國[illegible]齋仁齋[illegible]の[illegible]師[illegible]程朱
[illegible]孔子の
[illegible]釋迦の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三隅ニ章孔門平生ノ教ヲ[illegible]

[illegible]大早計ニ[illegible]

一ツ同ジ仕様ニ[illegible]

[illegible]大要ヲ程朱ニ[illegible]

二字大学ノ開巻第一義ニ於テ処ヲ得ル為ニ明徳遠矣ト
為ル又聖人而在明徳ト宋儒ノ説ニ朱子明徳ト
ニ解シテハ一向ニ[illegible]ヤ相当ノ説ニ[illegible]
[illegible]ヤ[illegible]
徳ノ[illegible]
ヨリ離レ[illegible]
[illegible]
[illegible]

知至知至而后意誠と云て天下平と收束せり然
れハ格物と一條なるの除て誠意正心修身ハ
工夫ハ皆これを西と後と見て其要ハ明明
德於天下と云句に使天下之人皆在以明其明德と云て人
心を平にして其性を盡さしめ堯舜と世也たる民を世世民
みなこれを明らかにする事を後と後と大學小學と
多て大學ハ庶人に悉学ハ天子に施せとあるべし第一処教也
学ハ子弟を教し学ハ子弟を教し学ハ人倫明於上庶
民親於下と云るこれ親民と云ハ新民と云ハ親民
新民ハ西革命れること大學の中に平り
るこれ学ハ又極和と二字を窮到事物
之理と云句有之ハ学ハ易し窮理之文字を借来て注した

而物ハ格ハ到也物ハ事也と注したる西と後と
窮理ハ窮ハ究ハ窮到事物と云ハ窮理ハ
注して義を生しるの故に
物ハ格ハ注して旦易しこれ窮理ハ学人の易と作りの人
而と贊欲を行て全くこれを学ハ云しこの学ハ云ハ心
と平にしてハ性之の為ハ云る学ハ云ハ心
まるやを学人の為西と後て人を治るとの為ハ学
三綱領ハ條目と西と後ハ修身と信ハ切として大学に
斗ハ云しこれ一而ハ止と云ハ学ハ和極ハ云
又程朱と云ハ学ハ云ハ学ハ和極ハ云
質と云ハ学ハ孔子ハ学と云ハ学ハ孔子
の学人ハ説ハ云ハ果而程朱と云ハ程朱ハ孔子
と同学の学ハ云ハ学ハ云ハ学ハ云ハ程朱

[illegible]に一流と[illegible]
くの時代のふ同あどくもぐらり[illegible]る後世利にの後の[illegible]
るこんなことを古[illegible]
津とやるとこの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てと理を同じ事と解釈してみて孔顔のごとき聖人は
ひとり人中の人倫に杜撰なるものとなるべし聖を称ずれば
除く聖人と称してたとへかくあるべきやうなれども
とと聖人と生まれつきたる人をもつて聖人とみるべきなり
りてはそれとは行ひ違ひ徳を修してはじめて習ふ性成習慣の天性
を坦然たるべし学問をなすべきは聖人の道を学ぶ
ものといふ事なり人倫のもとはいはゆる五倫
しかるに父子の愛は性と仁義礼智信の五常
無のひとつとなるものにあるべきなり夫婦は人倫
敬をもつぱらとなす夫婦は伏羲と女媧と
荒に世はじめて高辛しめくにしたがひて君臣明友の五倫
をもつてはじめて聖人と生まれつきたる人を聖人
人事原質大の智をもつて人の生まれつきたる人の

聖人にて生まれつきたる人を聖人
程朱陽明はたれもみな知行合一なるべし知行合一
なきたる物の知行ひたる人バカ者と耕作をいはゆる農道
聖人なるやいなやと論ずるに芸帝しまつ
一聖人なるやいなや赤人の性おのづからまつたくしてはじめて
世界を通陽して地自然とある事なり知行合一
の道と平めくべき古聖人しかるべき
赤人聖人と思ふなかれ五倫
はて地ひとしくて地の出産を産出する
地曰帝とそれぞれの徳合天
の理あるべきは舌しまつ行ひ聖人の仰可をなしたる
事なり聖人の性おのづからまつたくなること
とと子思ハ率性之謂道と云ひ脩道之謂教と云ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下の天子自ら行なはるゝと思ふべきなり。
雖迹を合し陰を異にすれども、おのゝ事ありてまた
下に相ひ助け、共に天下を治むる我が一つの事なり。而して人
民の古昔のまことに帝堯・帝舜の世にもありて、堯舜に
ありてはまた堯舜より孔子と遷り、孔子と堯舜
堯舜又世代と共に堯舜より孔子の元祖なる意
堯舜と国とを治めて天下を治むるの道を
孔子の学問なる世にもいまだ行はるゝ時を待つ世の
人にして、天下を治めるべきなり。されども孔子
の学問を用ひ国文武周公に継ぎて修補せしなり。
故に孔子の学問は天下の人民宋儒に
国を治めて天下を治める事なり。
まりて孔子の好学とのたまへる具解ふ

明公或は宰相といひ或は学者と勉むるの務おのずから
しらるべきなり。己が意を以て正しき実なる
国を治める士大夫たる人を君と輔てまつりて治むるを
を治める人なるべし。君とは天子なり。臣とは諸侯
臣とは大夫なり。我身ひとつを修まると雖
とも治まらざるなり。故に修身斉家治国平天下
と云へり。故に学問は天下を治むるの道なり。
此学問は君と臣と相輔て治むるの道なり。
輔相の人は君と臣と二人なり。四十年と老日
と云て君臣相輔て治むるの事なり。
體用一源と云て儒と学問の道は宋儒有
道学に有るべきなり。
故に仕法と道とを以て学問の道より生ずる事
を粗迹と云て仕法と一時精微なる家病根なり

精粗とるべき事もあれども一向に棄てるに精を学ん
で粗を捨んぬる人体をいまだ聞かず儒仏道の体
一宋儒古今を貫て天地の理を究て一貫の義此段学
問の要極なり古今を貫て理一貫と云ば何ぞ異端
異説を排して是非を論ずべし
一異端とは仏教を指す儒家に対して仏教のみ一貫
の教と云べきなり儒家に対して仏教のみ
と云べきなり儒家に対して仏教のみ
世人の心を惑す事甚しかるべし
一王代一覧と云ふ書にはまとまりの法度
なく唐史に唐史は唐人の書
なり宋史は宋人の書
なり歴史は見るべきなり

材木なれども大小ありて小は切の用をなすべしと
一宋学とは正しき儒学なり成学一貫なり為政
為相は経学の為相なり
しかるに小は切の用をなすべし
代々唐の弊を改て宋の弊を
出す新法と云ふ事なり宋学と朱子曰代の
弊を改て新法を立る事なり
道は宋学なり
道の二様なり宋儒は
六経を本とす
儒のみを本として
酒なれども

程子かさしてと注解し給へる所のみを主とし
給へる文章にあらず害に分之に程子のうへ害ハ
みやこ(京)の古学と矣の古学の理学を現
人の所おのゝ所学ハ一層の皮膜を隔
ハ想雖宋儒の学ハ古学人しむとうみ出し作と解したる
おもてハ程子弟子ゆゑ聰明特達人まて古学
人のものをまねてゆゑに自らこゝ人識まて理を
を掠さ言たらおもてハ宋儒を掠りて古学人作たる
人と称らるゝ輩を尊ハして歳をかがめし先
理学のあゝ害ハ学者しこの細を出て指ハ学者
ゝ知ゝ人識も定りゝ学者もあるゝ人指ゆゆゑ
ゝ学者ゝ知ゝたるゝ人指ゆゆゑ宋儒し知ゝ嶋ひ
嶋ゝのゝ人ゝ程内指ゝ学者ゝ作ゝたる人

宋儒し理学ゝ人ゝ邪学のゝ人ゝ邪学のつよくかゝり
指ゝ人ゝ学者ゝ学者ゝ作ゝ学者ゝ作ゝ学者
慢ゝ学者ゝ思ゝ学者ゝ指ゝ風程子弟子のびやかなる学者ゝ嶋
ひよゝ知ゝ人ゝ識ゝ学者ゝ世ゝ学者ゝ山崎闇斎見ゝ
人柄ゝ学者ゝ邪ゝ学者ゝ邪ゝ学者ゝ学者ゝ学者
しゝ元ゝ学者ゝ学者ゝ流し偏ゝ学者ゝ学者ゝ学者
俗人ゝ中ゝ学者ゝ学者ゝ人ゝ学者ゝ学者ゝ学者
しゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者
の害ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者
而ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者
ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者
学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者
学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者ゝ学者

[illegible]

一詩書二種は孔子の教ふる所なり詩書は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一官府の幣しゐ[illegible]ゆ[illegible]通典律令しゐ[illegible]
[illegible]し唐代八代しの制法は[illegible]
しゐ[illegible]代[illegible]代し開祖の[illegible]し[illegible]
[illegible]
[illegible]時代し[illegible]
[illegible]代し[illegible]
[illegible]代[illegible]

の[illegible]日本の昔し制度し[illegible]
[illegible]
[illegible]

一楚辭國語は後世の作り物呂氏春秋淮南
子說苑家語戰国策も莊列と共に雜家
為たれども皆博く学問の為に行要は孔子を始学ぶ
べき所なり代々聖人の経学なれば必ず
聖人に学ぶべし（中略）宋学は
一長生の術道教を学ぶ者は佛教を絶ち
は芸術を学ぶ者は他の事を絶ち故暇あ
らざる程に為（シタメ）ぬ故に他の事を絶し細芸八
面に亡ぶ人は先ず学ぶべき事を知らず
学ぶべき事を知らざる故学ぶべき事も
学ぶべからざる事を学ぶ
学ぶべからざる事を学ぶ故に学ぶべき事
学ぶべからざる事を学ぶ故に学ぶべき事
学ぶべからざる事を学ぶ故に学ぶべき事